人材バンクの活用

沖美町

1　実践の視点

○　地域の教育力を学校支援として活用
○　放課後・休日活動の支援
○　地域コミュニティの推進
○　地域の人材発掘および人材

2　実践内容

町内各地域に散在している人材をボランティアバンクに登録し，派遣する。名簿は町内各小・中学校に配布し，利用を促している。

実施例としては，おさかな教室，しめ飾りづくり，竹とんぼづくり，調理教室等である。

（おさかな教室）

町内に２つある小学校合同で５年生を対象に地域の伝統的な産業である水産業の講習や放流体験を通して，水産業の振興や，水産資源の確保の大切さを理解することと，両校の交わりなどを目的に小学校，漁協，県，町，町教育委員会などにより実施している。

内容は，約１時間の講習と質疑，その後海岸での稚魚の放流である。

おさかな教室

（しめ飾りづくり）

主なねらい

・　昔から伝わるお正月の風習のひとつを受け継ぐことを通して，日本の文化を大切にしようとする態度を養う。

・　地域の指導者から学ぶことやふれ合いを通して，地域や地域の方に親しみを持つとともに地域を愛する心情を養う。

・　一つの作品を仕上げるには，さまざまな材料やそれにかかわる人が必要なことを感じさせる。

（対象５・６年生）

しめ飾りづくり

（竹とんぼづくり）

主なねらい

・　昔遊びを知り，ともに遊ぶことを通して豊かな情操を育む。

・　地域の指導者から学ぶことを通して，地域や地域の方に親しみを持つとともに地域を愛する心情を養う。

・　お年寄りの豊かな経験と技能に触れ，お年寄りを敬愛する心を養う。

（対象４・５・６年生）

竹とんぼづくり

3　成　果

各地域でそれぞれ人材を活用しているところであったが，人材発掘・情報等を整理することで，人材派遣の幅が広がり新たな事業の展開ができた。

地域の人材を発掘することで，講師等を努めた人の新しい生きがいを生み出し，生涯学習の推進に寄与した。

子どもの祖父母や地域の人が講師等を努めることで，祖父母等のすばらしい点を見出すことができ，家族の対話の推進ができた。

学校週５日制にむけて，現在は町内の人材だけであるが，今後は近隣の町の人材発掘も行わないと対応が難しくなるだろう。